

# まんだら通信

平成19年(2007)09月 佛誕2573年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084  
真言宗智山派 天神山 紫雲寺 高橋 龍涉  
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺  
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040  
URL <http://www.awa.or.jp/home/ryusho/>  
E-mail [ryusho@awa.or.jp](mailto:ryusho@awa.or.jp)

## 釈尊、最後の旅

遙か二千五百年の昔、インド亜大陸の西北で生まれた教えが、特にアジアの人々の心を今なお潤し続けています。

ヨーロッパやアメリカでは、信ずる人は残念ながらもまだ少ないのですが、その素晴らしさを知らないだけであつて、『神の正義』で相手を打ちのめし、地球の自然環境は人間が作り替えて宜しいという、現在のキリスト教やイスラム教のような人間中心の考え方ではなく、思いやりと自分の欲を見極めて調えるという、仏教の考え方によらなければ、明日の世界は来ません。

幼い頃、お供を連れ、お城を出て農村に行つた時に、すぎ起こされた田んぼの虫が、鳥の餌食になるのを見て、とても悲しまれたという挿話があります。

この感受性の強い王子が、生まれ、老い、病み、死んで行くという、誰にも等しく訪れる、避けることの出来ない悩みと立ち向かい、やがてはこれを滅ぼす



という方法を見つけてのことになります。そして入滅されるまでの間、雨期の一定の時期(雨安居)を除いて、村外れのお堂に泊まり、果樹園で野宿し、使い捨てられた衣類を洗い繕つて法衣とし、毎朝の托鉢で自らの食事を得て、この無上の教えを説き続けました。

法話の相手は王様や貴族やお金持ちは無論、名もない人々、例えば遊女であつたり農民であつたり鍛冶屋さんなど、相手の教養や立場の違いに依りて、誰にも良く分かるように説かれたのでした。

在家の人たちへのお話は、「あれもこれもと、欲張ることを慎んで質素な暮らしを心がけ(少欲知足といひます)、自分をいとおしむように他人を思いやり(利他です)、神や仏を敬うことが、一番の幸せになる道です。」ということが殆どでした。

なんだ、そんなことなら誰でも知つてると言われそうですが、知つていても実行できないのが私たち。自分を含めて、身の回りを見ればたちどころに分かりますよね。つまり、本当は知らないと同じなのです。

本当の人間になるための教えが仏教であり、それは例えば、大海原に行く船乗りにとつての北極星が仏さまであるとすれば、その教えは羅針盤ともいえるのでしょうか。

羅針盤を身に付けることがつまり、教えを身体で覚える、ということですね。

さて、ご入滅前の最後の法話は、鑄(かぎ)職人(金や銀などで装身具を作る職人さん)チュンダへのもので、その時に差し上げたお食事が、お釈迦様へのこの世での最後のご供養になりました。そ

◆ふれあいコンサート

障害のある人もない人も、互いに助け合い楽しむのがコンセプトの、ふれあいの会主催名物コンサートです。ここ数年フルートの深津純子さん(館山市ふるさと大使)とインド音楽の組み合わせで、他所では聴けない素晴らしい音楽です。みなさん是非お出かけください。

フルート 深津純子 タブラ 逆瀬川健治  
シタール 辰野基康

日時 10月6日(土)  
開場 午後5時30分 開演 午後6時  
入場料 2,500円

る布教活動で馴染深いラージャグリハ(霊鷲山があります)を出発して、クシナガルのご入滅で終わっています。

私も、過ぎた九月五日に七十三歳になつて、八十歳のお釈迦様(当時のインドではとつてもないご長寿です)が、いつも身近におられたアーナンダ尊者に「私の身体はね、壊れかけた車を革ひもで繋いで、やつと動いているようなものなんだよ。」と仰つたという挿話が、何となく実感できる気がしています。

そこで、最後になるかも知れない佛蹟の巡拝、特に今回は『釈尊最後の旅』のコースを、お誕生のルンビニを含めて計画しました。

時期は十一月中旬、費用は三十五万円前後で、今のところ同行者は六人ですが、少し人員に余裕がありますので、ご希望の方はお問い合わせ下さい。

他の海外観光旅行とは全く違う何か、が見えることは間違いありません。

◆石戸寺・観乗院・長福寺と紫雲寺合同の施餓鬼会のお知らせです。

今年も例年通り、9月24日午後2時から行います。今年も振替休日でもありますので、お誘いあっておいで下さい。◆元気の頃は、自転車で一日百軒余りお経を上げたお盆の棚経。

近頃は馬力もなくなって小戸・下沢・青木・島崎・東横渚と川下の一部程度になりました。あとは龍岡や南条など、離れたお宅が私の受け持ちです。大抵のお宅は、後ろに座ってお経を聞いて下さいますが、テレビの音ガンガンや「勝手にやってくれ」みたいな感じの家も。

私には兎も角、仏壇の仏様に失礼じゃないかなと思うのですが。◆今月の発行部数。本郷・川下・西横渚の各集落の

分が500部。郵送分は525通、×て1,025部ですが、こちらの方は毎月何通かずつ増えます。

もう少し何とかならないものかなあ、と思うほど出来の良くない寺便りですが、仏教ってこんなに元気が出るんだ、といつか気づいてもらえるきっかけになって欲しいと...それだけが願いです。◆誰でも入れるお墓、『永代供養墓』のことを書いたところ、「どんなものか教えて欲しい。」という連絡がいくつかありました。毛利石材店さんが、今年中に作って下さることになりましたので、でき上がったら正式にお知らせします。暫くお待ち下さい。

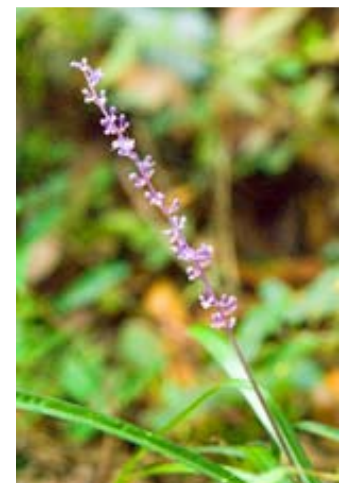
◆今月の野草はヤブラン【ゆり科ヤブラン属】です。

名前はランですが、ユリの親戚なんですね。林の下などの余り日が差さないようなところを好むようです。8月から9月にご覧のような赤みがかつた紫色の花を咲かせます。背丈は30~50センチ。葉の形は春蘭に似ています。

写真は白浜ダム近くのもですが、良く眼にする、ありふれた野草といえましょう。

それから、いつもなら8月中旬から咲き始める、つる草のセンニンソウが、今年は遅れて9月になり、道端で象牙白に咲いています。

07.09.09 龍涉



## 余滴